



製品情報

レース・イベント

ダウンロード

ショップ

お問い合わせ

用語集

会社案内

レース・イベント

GP/EP Car Series 2006

KYOSHO CUP 2006

MINI-Z CUP 2006

Meister CUP 2006

KYOSHOサーキットスケジュール

サポート選手

TOPへもどる

TOP > レース・イベント > KYOSHO CUP 2005 > ファイナルチャンピオンシップ >

< Back

RACE / EVENTS

第12回 KYOSHO CUP FINAL 3月18日 (土)



**いよいよ開幕！初日予選トップは
【Sクラス】“いすゞ自動車藤沢” 【Rクラス】“武空調サービスB”**



**熱気は最高潮！
ピュアテンNo.1を決める大一番が幕を開けた！！**

■ 2006年3月18日。神奈川県厚木市京商サーキット。1年を通して繰り広げられた熱い戦いは、後2日で完結する。
全国10箇所で開催された予選を勝ち抜いた強豪57チームによる熱戦が始まった。
午前中は各チームの健闘を称えるかのような晴天。しかし昼過ぎからやや雲が多く出始め、併せて強い風も吹き込み始める。

この風がクセモノ。今年は、京商サーキットリニューアル後初の大会ということで、皆コースレイアウトを体に刻み込むように練習を繰り返す。さすがに各地区予選突破者だけあり、早々とコースの特徴を掴んでいく。

この日は練習走行2回と予選2ラウンドで終了。Sクラス・Rクラスともに18周台をこなすことが上位入賞のボーダーライン。明日19日に残された予選3ラウンド目で、この周回をどれだけこなせるかが、決勝の行方を握る鍵。どのチームも長旅の疲れや、初見レイアウトの戸惑いなどを見せず安定してタイムを上げてきている、現時点でいすゞ自動車藤沢がSクラスで、また武空調サービスBがRクラスで暫定首位を獲得しているが、予断を許さない状況であるのは確か。どのクラスからも上位を狙える「勝ち上がり」形式を採用しているファイナルでは、どのチームも予断を許さない、熱いドラマが控えていることは間違いない。

■ **楽しさと緊張が共存するのが「KYOSHO CUP」**



KYOSHO CUP FINALといえば、“お祭り”というもう一つの側面がある。今年も、各協賛メーカーによる協力の元、多数のブースを設置。京商からはレアなものから良くわからないものまで(!?)何でも売っていると評判のジャンク市を開催。多くの来場者で賑わっていた。

また、昼食時には前回も大好評だったおいしいわっぱめし屋さんに長蛇の列が。備え付けのセイロでアツアツの食事を提供してくれると有り、こちらも大人気だった。

■ **個性的な趣向を凝らしたマシンが大挙参戦。見ているだけで楽しめる！**



FINAL参加者だけあり、走りだけではなく、ディテールにもこだわった多くのマシンが見受けられた。
デカールも市販品ではなくオリジナルで作成し、見た目も華やかなそのボディはコースを美しく彩る。

■ **遂に降り出した雨。勢いは弱いですが、路面状況が急激に悪化。**



午後より時折吹き付ける強風に伴い、気温も下がってきた。それに連れて路面温度も低下。グリップが安定しない状況の中、各チームは最善のセッティングを目指して練習走行を続ける。

また、16:00頃より小雨が降り始めた。勢いは弱いですが、路面状況が悪化。予選の結果に大きな影響を与えた。

■ Sクラス ■ | 公式予選 初日(1回、2回総合)結果 |

■ Rクラス ■ | 公式予選 初日(1回、2回総合)結果 |

3月19日レースレポートはこちら

RACE / EVENTS
第12回 KYOSHO CUP FINAL 3月19日 (日) **KYOSHO CUP 2005**
JAPAN SERIES

レース継続の願いも空しく、開催史上初の荒天途中終了！
WORLD CUPへのキップを手にしたのは……。

■ 2006年3月19日。いよいよこの日で日本一が決まるとあり、どの参加者からも緊張感が伺える。天候は生憎の雨。気温は高めだが、吹き付ける風の強さで体感温度はかなり低く感じる。当初は大会開催自体が危ぶまれるような雨空だったが、参加者の願いが届いたのか、AM8:00頃より急激に回復。一部スケジュールに変更があったものの、レースは開催。決戦の午後を迎える事となった。

■ 緩やかに差し込む日差しの下、開会宣言が行われた。



早朝より行われたコースクリーニングの後、開会式を開催。弊社会長 鈴木明久による開会宣言をもって、いよいよ大会2日目の幕は開けた。しかし、雨の為 レースのイコロンコンディションが保てないとの運営委員判断により、予選3回目はキャンセル。急遽新たな練習走行の時間が設けられた。各チームともに一変した路面状況に対応する新たなセッティングを見出すべく念入りな練習を繰り返す。



午前中の練習走行を終え、いよいよ各クラスファイナルへと突入した矢先にまた広がり始める暗雲。いきなり降り出してはすぐにやむという天候と、それに付随して変化する路面状況に苦戦しながらも各チームはベストを尽くして走り始める。しかし路面は所々に水溜りのできる状況。スピン続出の展開に順位は大きく入れ替わり、ギャラリーから歓声と悲鳴が聞こえてくる。

降ってはやみ、また降り出すという雨の為、途中何度となく行われた中断。スタッフ・参加者の協力のもとレースを進めるべくコースクリーニングが行われた。そして1/4ファイナル終盤で大粒の雨は突然ヒョウとなった。同時に雷も鳴り始め、天候悪化は急激に進む。これではレース続行は望めず、またも中断。その後、運営委員会の協議により、15:00までをタイムリミットとして様子を見ることとなる。結果、天候回復を祈る参加者の思いは空しく、レース途中ながらも中止が決定。予選の結果を元に2005年度のチャンピオンが決定された。

■ 恒例の雑誌社対抗レース開催。メンツを賭けた本気の戦い！



■ KYOSHO CUP FINAL 恒例の雑誌社対抗レースが今年も開催。今回はFW-05Tのワンメイクレースとなった。午前中の天候の良い間に行われた練習走行では、各出版社の看板を背負った代表選手たちが軽快に、または必死に予選ラップを刻んでゆく。これをものに午後に決勝レースが行われる予定であったが、天候不順によるスケジュールの都合により、雑誌社対抗レースの決勝は中止され、順位は予選結果により決められた。だが、各担当者の走りはギャラリーを十分に満足させたようだ。

結果はこちら

Sクラス総合結果 最終順位>>



優勝 「いすゞ自動車藤沢」チーム
■ 「KYOSHOコースリニューアル後から、走り込みに来ていたのでセッティングがある程度見えていたので自信がありました。2日目の天候の悪化を予想していたので、予選から狙っていく作戦がよかったと思います。」

準優勝 「久住小学校6年1組」チーム

3位 「コマツライリンクSSS」チーム

Rクラス総合結果 最終順位>>



優勝 「武空調サービスB」チーム
■ 「昨年ファイナルのエンジントラブルによるリタイヤの悔しさをバネに、がんばってきました。チームのセッティングができていたので、特別なことはせずにタイヤのマッチングに集中したこと、お互いの信頼関係が勝因です。」

準優勝 「ミスティー」チーム

3位 「日本テレコムR」チーム

コンクールエレガンス



「ホビーショップてづか S-1」チーム (新田 光紀氏/佐々木 博章氏)

■R/C暦:3年/新田氏・10年/佐々木氏
「選ばれてとても嬉しい。マスキングに苦労したが、重ね塗りによる立体感が上手く出せたと思う。京商カブリは、新しい出会いと発見のある場所。できればもう少し早くFINALを行って欲しい。」

3月18日レースレポートはこちら